

ネットワークソフトウェア論文特集の発行にあたって



ネットワークソフトウェア論文特集編集委員会

委員長 若原 恭

20世紀終盤の90年代から急速に発展してきた情報通信ネットワークは、21世紀に入ってもその勢いが継続している。むしろ、P2P、SNS、仮想世界、電子商取引等アプリケーションは拡大の一途をたどっており、近い将来には本格的なユビキタスネットワーク社会が到来するものと見込まれる。このような社会を支えるソフトウェアも技術革新が進んでいるが、モビリティ管理を含むネットワーク基盤技術、ネットワークサービスにかかわる制御技術、開発環境・エージェント等の様々な要素技術等多岐にわたっている。

しかし、ネットワークソフトウェアは、その重要性や役割の大きさの割には、縁の下の力になりがちで総じて控えめな傾向にもある。その一因は、ソフトウェアを意識しなくてもネットワーク社会を享受できることにあるが、関連分野の研究者や技術者が多忙なため研究や開発等自体に力点の重心が移ってしまうことからアピールが必ずしも十分でない点や泥臭い努力が少なくないため学問としての体系化や論文としてまとまった成果のアピールが必ずしも容易でない点も理由に挙げられよう。

このような現状にかんがみ、ネットワークソフトウェアに関し、その技術の真髄と革新を明確にして世の中にアピールするとともに、更に研究・開発の促進を図っていくためには、より多くの情報交換や意見交換を推進していくことが必要不可欠と思料される。本会では、そのような手段として、主として口頭による研究会や大会と、書き物による論文誌がある。前者については、現在、ネットワークソフトウェア時限研究専門委員会（委員長：角田良明 広島市立大学教授）が組織され、ネットワークソフトウェア研究会を年に3回程度催し、毎年開催されている総合大会と通信ソサ

イエティ大会において関連セッションを運営している。後者に関しては、この専門委員会が主体となって、関連技術課題をテーマとする論文誌特集号をほぼ毎年企画し発行している。

本特集号は、その一環として企画されたもので、20編の論文投稿があり、最終的には7編の論文を掲載することとなった。これらの論文のテーマは、センサネットワークにおけるノード故障対策法、アドホックネットワークにおける効率的な仕様適合性試験・ブロードキャスト法・データ転送制御法、利便性に優れたネットワークエミュレータ、SNSの活用度の向上を図る手法、及びネットワーク状態の変化に対応した時刻の補正法である。いずれの論文もネットワークソフトウェア技術の一つの側面や切り口から論じ、最新の優れた研究成果をとりまとめたものであり、今後のネットワークソフトウェア技術にかかわる研究の発展や開発等に役立てて頂ければ大変幸いである。

最後に、本特集号の発行にあたり、貴重な研究成果を論文としてとりまとめ投稿頂いた執筆者の方々、多忙な中ボランティアとして多大な査読の労をとって頂いた査読委員の方々、査読判定や著者への回答文の作成を含め企画・編集に献身的に御尽力頂いた編集委員の方々、及び適切な事務処理を迅速にこなして頂いた事務局の奥村梨奈様に深謝の意を表す。

若原 恭(正員) 昭47東大卒、昭49同大大学院修士課程了、同年国際電信電話(株)入社、平11東大教授(現職)。この間、ファクシミリ通信方式、国際ゲートウェイスイッチ、国際通信ネットワーク、ネットワークソフトウェア、低軌道周回衛星ネットワーク、アドホックネットワーク、ネットワークセキュリティ等の研究に従事。

ネットワークソフトウェア論文特集編集委員会

委員 幹事 委員	長 事 員	若新青角三	原津善道良	恭弘・水野賢治・太田理主	・石田井裕之・加藤	・水野賢治・太田理主	・荻野長生	・菊間一宏
		・木田宅	・明優	・森谷高	・明	・藤	・野間	・宏